

エピソード

「転がし遊びをしよう」と、築山の上で友達を誘いだしたAくん。Bくん「それならここに転がしコースをつくろうよ」Cくん「山の上コースにしよう」と話すと、Bくんは波板を持ってきて「でこぼこ道やから山のコースになりそう」と築山に置き始めました。波板が坂から滑り落ちてくるのを見て、Aくん「椅子持ってくる」Bくん「洗濯バサミの方がいいよ」と、それぞれに椅子と洗濯バサミを持ってきて波板を止めると、Dくん「ドングリ転がすよ」と、頂上からドングリを転がしました。Bくん「ドングリが落ちていったよ」Dくん「ここから落ちたよね?」と、波板のどこから落ちたか場所を確認しましたが、ドングリが波板の途中で落ちてしまったのは、波板の左右の高さが違うため傾いているということには気付いていません。Bくん「ここから落ちたから」と、ドングリの落ちた場所はわかっているため波板の淵にトイを置き落ちてきたドングリを受けようとしてしました。Cくんは「もっとトイを置いてみよう」と、AくんとCくんがトイや波板を並べ、BくんとDくんが何度もドングリを転がしましたが、波板が傾いてしまい波板やトイも築山の傾斜で滑り落ちていくため、下までドングリが転がりませんでした。AくんとCくんは「山の反対側に道具を持って行って、つくろう」と声を掛け、みんなでつくりなおしましたが、傾斜が急なため思うようにいかず「どうしよう」と悩み始めた時に片付けの時間になってしまいました。Cくん「山の上にコースをつくるって難しいことなんかな?」Aくん「明日はもう一回最初にコースをつくった方につくってみよう」と、次の日に挑戦しようと声を掛け合っていました。

子どもの育ちや学び



・築山の傾斜を利用することで、転がし遊びができると思い、山の道のように凸凹のある波板を選びました。(やってみよう)

・今までの遊びの経験から、椅子や洗濯バサミを使えば止めることができると考えコースをつくっていききました。(経験を活かす)

・ドングリが落ちた場所は確認できましたが、波板の傾きには気がつきませんでした。しかし、落ちたところにトイを置くことで、波板からドングリが落ちてしまってもトイの中を転がると考えました。(確認、気付き、考え)

・傾斜があるため自分達の思うように用具が置けないことで、場所を変えると解決するかもしれないと予想し場所を変えましたが、それでも思うようにいきませんでした。自分達の思いを実現するために、翌日も挑戦しようと片付けながらもどのように並べるか話をしていました。(つまずき、予想)

保育者の思い

- ・今までは、コンテナや脚立を使い傾斜をつくって転がし遊びをしていましたが、築山を使って山の上コースをつくろうと話し始め、今まで使ったことのある用具をどんどん築山に運んできたため、どんなコースをつくるのか楽しみにしながら見守りました。
- ・波板の途中からドングリが落ちていることに気付いた時に「なんで落ちるんだろう?」と問い掛けましたが、波板が傾いているということには、築山の上からでは気がつきませんでした。波板の傾きに気付いて欲しいと思った反面、ここでは言わずにまずは波板の途中で横に落ちていかないように考えている子どもの姿を大切に、繰り返し転がすことで傾きにも気付くだろうと思い、子ども達の気付きや考えに共感しました。
- ・斜面ではコースづくりも難しくこのまま心が折れてしまい、遊びが終わるのではないかと心配しましたが、反対側につくろうとし始めた子ども達を見て「反対はもっと急だよ、そっちの方が難しいでしょ」と心の中でツツコミながら、子ども達が挑戦することで気付くことを大切にしたいと思い見守るようにしました。

家庭だったら・・・

子ども達の「あれ?うまくいかない」という気持ちに、つい声を出してしまいそうになりますが、友達と考えいろいろな方法を試すことで失敗も経験し、遠回りしてもいつか気付く時がくると思います。つい言ってしまうようになりますが、子ども達が自分達で気付くことを大切にしたいですね。